

YouTube動画を活用した検査説明運用の実例

JART 検査説明委員会委員 山形県立中央病院 放射線部 荒木 隆博(Araki Takahiro)

【はじめに】

適切な検査説明は患者にとって安全・安心な医療を提供する基盤であり、またトラブルを回避し、医療従事者間の連携を円滑にする重要な要素です。しかし、従来の口頭説明や紙媒体では患者に十分に伝わらないことが課題とされています。これに対して、診療放射線技師としての役割を生かし、デジタルツールを活用することが、新たな検査説明の可能性を広げると考えます。

【YouTube動画の活用】

本講演では、YouTubeを用いた検査説明動画の制作と運用について述べました。この動画は患者目線で構成され、検査の具体的な流れを視覚的に再現することで、検査前の不安を軽減し、内容の理解を深めることを目的としています。また、短時間で多くの情報を伝えることが可能であり、待ち時間の活用や自宅での視聴を通じて、時間や場所にとらわれず説明を提供できる点が特徴です。さらに、アンケート結果では高い満足度が示されており、患者だけでなく医療スタッフの教育ツールと

しても有用性が認められました。

【検査説明の課題と未来】

一方で、施設や技師個々の対応により説明内容に差が生じる現状や、説明が不足したことによるトラブル事例も存在します。これを踏まえ、動画を補助的に活用しつつ、患者に寄り添った「伝える」ではなく「伝わる」検査説明を実現することが重要です。これには、技師によるラポールの形成や傾聴といった、AIには代替できない人間的なスキルが不可欠です。

【まとめ】

検査説明は患者との信頼を築き、医療の質を向上させる鍵です。YouTube動画の活用はその効果的な手段の一つであり、今後さらに多様な検査モダリティへの展開が期待されます(Fig.1)。全ては患者のために、そして我々診療放射線技師のために。次世代の検査説明の在り方を模索しながら、医療に貢献していきます。

Fig.1 検査説明動画のYouTubeサイトQRコード